

OSSビジネスの推進にむけて

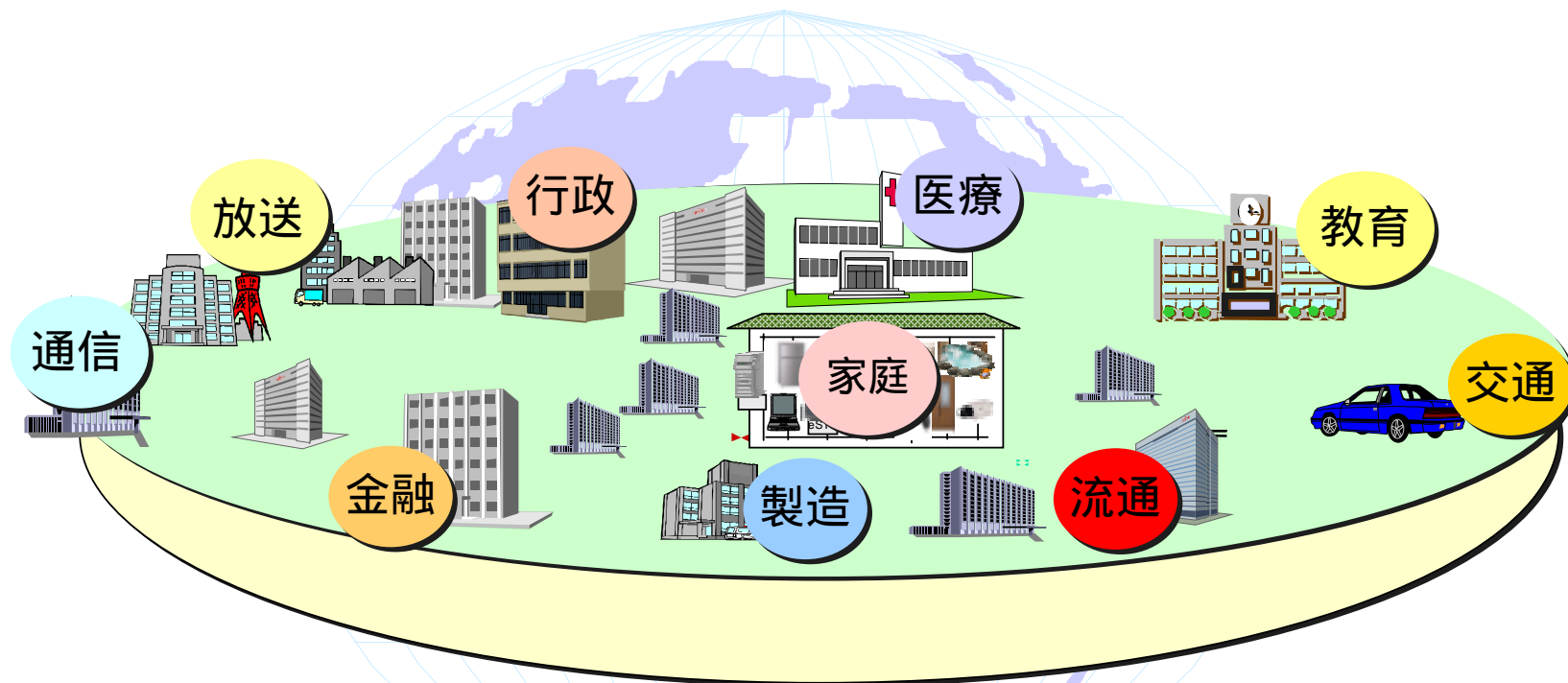
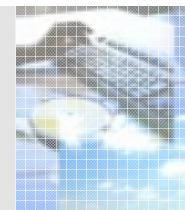
2004年12月3日
富士通株式会社
石田 安志

目次

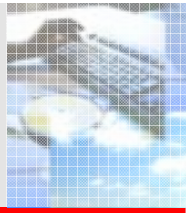


1. 新たなIT社会の到来
2. OSSビジネスの拡大に向けて
3. ビジネス拡大に向けた取組み

1. 新たなIT社会の到来



- ・ユーザーがストレスなくITを利活用できる
- ・質の高いサービスを自由に受けられる



新たなIT社会の創造

OSSの特徴

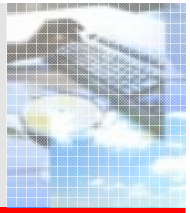
- ・いつでも使用可能
- ・ソースコードが公開されている。
- ・技術者の英知が集積されるコミュニティが存在

OSSの特徴が
新しい社会創造を
ドライブ

新しい社会創造 に必要な行為

意欲を持った人々の
自発的な取組みが
不可欠

- ・自由な発想
- ・試行錯誤
- ・仲間との議論



社会システムがITに要求していること

社会活動の継続性の支援
生活の質の向上への貢献

ベストエフォートの提供

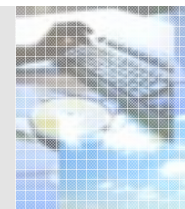
ITシステムが達成すべき
サービスレベルが変化



一定レベルの機能、
品質の継続的な保証

現在のOSSでは達成が困難

2.OSSの活用拡大に向けて



ユーザ

- OSSに対する正しい理解
- 技術者（使える人）の育成
- リスクに対する意識の醸成

各プレイヤーがそれぞれの役割
を認識し、価値を共有

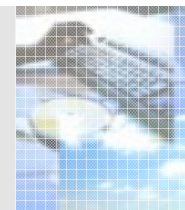
コミュニティ

- 共通スキルの蓄積
- 互換性、インタオペラビリティ 確保への貢献

ベンダ

- OSS製品の品質保証
- 他製品との連携保証
- インテグレーション能力

3. ビジネス拡大に向けた取組み



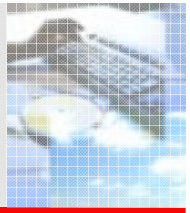
当社の主な取組み

製品としての品質向上

- ・基幹IAサーバの開発
- ・アプリケーションサーバ「Interstage」へのOSSの組み込み

標準化推進に向けた貢献

- ・高信頼性メッセージング機能 (WS-reliability) のOSS提供
- ・Eclipse COBOLの公開



ビジネス推進WGの取組み

■ 目的

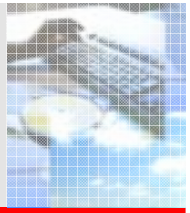
- OSSビジネスの展開に必要な基盤の整備

■ 背景

- OSSビジネスの加速のためには、OSSに関わる利用者・ベンダ・Sler・コミュニティの間で正確・有効な情報の開示・共有の仕組みが重要

WGメンバ : 13社/団体

- Vender: 富士通(主査)、日本ユニシス、日立、NEC
- Sler: 野村総研、新日鉄ソリューション、NTTデータ、NTTコムウェア
- Distributer : Turbolinux、Novell(J)、Red Hat(J)、Miracle Linux
- その他 : OSDL(J)



2004年度WG活動計画と状況

テーマ	目的	アウトプット	ステータス
TCO優位性の 検証	OSSのTCO優位性を 明快に説明	TCO分析のガイダ ンス	レビュー中
製品情報・ サービス情報 の提供	OSS関連の製品情 報・サービス情報の不 足を埋める	ベンダの情報 提示に対する テンプレート	試行中
知財課題への ガイダンス	OSSのIP課題に対し、 一部に存在する誤解・ 不安を解消	ベンダ・利用者・ 開発エンジニア 向けの啓発資料	計画



FUJITSU

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE